

# ■ 指定管理者制度導入施設 年度評価シート ■

評価年度	令和4年度
------	-------

## 1 基本情報

公の施設名	相模原市立老人福祉センター-溪松園、相模原市立老人福祉センター-若竹園
指定管理者名	公益財団法人相模原市まち・みどり公社
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
施設設置条例	相模原市立老人福祉センター条例
施設の設置目的	老人に関する各種の相談に応ずるとともに、老人に対して健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与する施設(相模原市立老人福祉センター条例第2条)
施設概要	<p>【相模原市立老人福祉センター-溪松園】 所在地:相模原市緑区大島3339 規模:鉄筋コンクリート造平屋建 延床面積:2,055.32㎡ 備考:老人福祉センターA型 昭和47年9月1日開館</p> <p>【相模原市立老人福祉センター-若竹園】 所在地:相模原市南区若松2-1-38 規模:鉄筋コンクリート造2階建 延床面積:1,233.8㎡ 備考:老人福祉センターA型 昭和57年4月1日開館</p>
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

## 2 管理実績

項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
溪松園	利用者数合計(人)	0	4,864	15,474			
	開所日数(日)	0	153	347			
若竹園	利用者数合計(人)	0	4,679	17,924			
	開所日数(日)	0	153	347			

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は1年間施設を休館。令和3年度は4月1日から10月17日まで休館。

## 3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
D	<p>・両施設の成果指標の達成度の平均は31.2%となるため、評価基準により「D」評価とする。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う利用制限等の影響があり、利用者が低調であったことは止むを得ないものとする。令和5年度以降は、カラオケ利用の再開や利用制限の解除等により利用者の増加が見込まれることから、施設の魅力向上とさらなるPRIに努められたい。</p>

指標	
指標名(単位)	一日平均利用者数(人)
指標式と指標の説明	年間利用者数÷開所日数

項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
溪松園	目標値(人)	161	162	160	161	161	162
	実績値(人)	-	31.8	44.6			
	達成度(%)	-	19.6%	27.9%	0.0%	0.0%	0.0%
若竹園	目標値(人)	151	152	150	151	151	152
	実績値(人)	-	30.6	51.7			
	達成度(%)	-	20.1%	34.4%	0.0%	0.0%	0.0%

#### 4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の達成度は106.06%となり、評価基準により「A」評価とする。</li> <li>・指定期間の更新に伴い令和4年度から新規に実施した事業も多いが、健康体操教室や介護予防教室、認知症サポーター養成講座など、高齢者の健康増進や介護予防に資する事業の参加率が低い。コロナ禍を経て、老人福祉センターにおいて特に実施が求められる事業内容であると考えられることから、より多くの参加を得られるよう、積極的な事業周知を図りたい。</li> <li>・溪松園における移動販売車の設置、新規ホームページの設置に伴う施設の空き状況の発信など、利便性の向上が図られた点を大いに評価する。</li> </ul>

#### 市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
【溪松園】医師などによる健康相談	4月～3月	参加者に医師や看護師から健康に関するアドバイスを行う。 参加数:のべ141人	○
【若竹園】医師などによる健康相談	4月～3月	参加者に医師や看護師から健康に関するアドバイスを行う。 参加数:のべ76人	○

#### 企画提案事業

(溪松園)

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
かわり風呂	4月～3月	四季を感じていただく「かわり風呂」を提供します。 参加数:のべ260人	○
健康体操教室	7月～3月	介護予防・健康増進のために、ワンコインで利用できる健康体操を実施します。 参加数:のべ60人	△
エンディングノートの作り方教室	12月	万が一に備えて、自身の思いや希望を書きまとめておくノートの作り方を学びます。 参加数/定員数:11/20人	○
認知症サポーター養成講座	11月	認知症の人やその家族を見守る応援者である「認知症サポーター」を養成するための講座を実施します。 参加数/定員数:10/20人	○

#### 企画提案事業

(若竹園)

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
健康体操教室	7月～3月	介護予防・健康増進のために、ワンコインで利用できる健康体操を実施します。 参加数:のべ82人	△
介護予防教室	10月	できる限り自立した生活を送ることを可能とするための「予防重視型」健康づくりを目的とした事業を実施します。 参加数/定員数:8/20人	△
歴史探訪講座 (まちかど講座)	12月	若竹園周辺に伝わる民話や伝説について、専門家の説明を聞き、地域に対する関心と愛着を深めます。 参加数/定員数:17/20人	◎
健康長寿教室	1月	北里大学講師による、健康と長寿について楽しくわかりやすくお話しいただく教室を実施します。 参加数/定員数:17/20人	◎

自主事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
【溪松園】移動販売車の設置	8月～3月	施設利用者及び近隣の住民の方に民間のコンビニ事業者による移動販売を提供し、地域活性化を図ります。施設利用者834人、近隣住民913人、計1,747人にご利用いただきました。	◎
【溪松園】50周年記念事業	9月～3月	設立50周年を記念して、看板・のぼり旗の設置、記念パネル展を実施しました。地元小学校児童の作品展示も併催し、期間中は60歳以下も入園可能とすることで、世代間交流の促進に寄与しました。小学生91人含む289人の方にご来園いただきました。	○
【溪松園】来園者200万人達成記念事業	9月	10月18日に来園者が200万人に達することから、当該日に来園された方に公社花苗生産センターで育てた花苗を200株無料配布し、緑化普及啓発に繋げるとともに、200万人目の来園者には緑区にちなんだ記念品(ミウルクッキー)を贈呈しました。	○
【溪松園】【若竹園】新しいホームページの作成、WEBの空室情報の発信	11月～3月	施設独自のホームページを作成し、施設概要及び自主事業等の案内を掲載を掲載します。併せて施設の空室情報を24時間いつでも閲覧できるシステムを導入し、利便向上に努めました。	◎

## 5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
<b>S</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者満足度の目標値に対する達成度は、溪松園が111.1%、若竹園が110.1%となり、いずれも110%以上であることから、評価基準により「S」評価とする。</li> <li>・高い利用者満足度を得ていることを評価する。継続して細かな改善に取り組み、さらに満足度を高められるよう運営されることを期待する。</li> <li>・アンケート調査の回答数が少ないことから、より多くの利用者の意見を取り入れられるよう、調査の実施期間や実施方法について、改善を図りたい。また、回答数の目標を明確にされたい。</li> </ul>

### 利用者満足度調査

調査手法/サンプル数	利用者へのアンケート調査を実施 実施期間: 令和4年10月1日(土)～10月14日(金) 回答数: 溪松園96件、若竹園122件
目標値の基準	総合的な満足度の設問に対する「満足」と「やや満足」の回答割合

項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
溪松園	目標値 (%)	90%	90%	90%	90%	90%	90%
	実績値 (%)	未実施	95.2%	100.0%			
	達成度 (%)	未実施	105.8%	111.1%			
若竹園	目標値 (%)	90%	90%	90%	90%	90%	90%
	実績値 (%)	未実施	94.8%	99.1%			
	達成度 (%)	未実施	105.3%	110.1%			

### その他の取組

取組事項	時期	取組内容
ご意見箱	通年	施設受付にご意見箱を設置し、利用者からの意見要望等を随時受付している。いただいた意見要望等は、施設内の掲示板に回答を掲示し、利用者全員が閲覧できる環境にしている。

## 6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	・施設においては本体事業収支、全体収支とも黒字であり、法人の経営状況においても特段の課題はないことから、評価基準により「S」評価とする。

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
収入（a）		114,390	110,864	114,687	
指定管理料		100,886	100,828	104,084	
利用料金収入		0	0	0	
その他の収入		13,504	10,036	10,603	
支出（b）		81,074	94,589	107,141	
人件費		25,785	29,808	33,965	
本社管理経費		6,155	5,736	6,469	
その他の支出		49,134	59,045	66,706	
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)		33,316	16,275	7,546	
自主事業収入（d）		0	0	27	
自主事業支出（e）		0	0	2	
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)		0	0	25	
全体収支 【(c)+(f)】		33,316	16,275	7,571	
備考	新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う指定管理料の返還金は次のとおり(上記の収支概要には含まれていない。) R2年度 34,310,651円 / R3年度 22,412,338円 / R4年度 なし				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

## 7 管理業務の履行状況

検査方法	チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング及び現地確認により検査を実施
実施時期	令和5年3月

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

## 8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成

有

ウェブアクセシビリティの取組項目		取組状況
機種依存文字を使っていない。		○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。		○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。		○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。		○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。		×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。		○
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。		○
その他取り組んでいること	なし	

## 9 指定管理者の自己評価

令和4年度は、カラオケなど一部の利用制限が継続したものの、各種教養講座等を毎月開催することが出来たため、施設に活気が戻ってきたと感じられる1年であった。7月に各種人数制限や飲食の制限緩和がなされたことを受け、事業における新たな試みとして、コンビニの移動販売や、ワンコイン（500円）で参加できる「健康体操教室」を新たに実施した。また、浜松園の設立50周年を記念したパネル展示を実施し、期間中は60歳以下も入園可能とすることで、世代間交流の促進に努めた。

これまで無料の事業や座学講習が多かったことから、初期は動員に苦戦したものの、広報や利用者間の口コミ効果により、定員を超える申込みとなる月もあり、参加者からは「身体が軽くなった」、「毎日やってほしい」と好評をいただいている。今後も健康増進に繋がる事業を積極的に展開していきたい。

また、利用者満足度調査においても、参加してみたい事業の希望や、毎日来るのが楽しみであるといった前向きなご意見が多く、浜松園では「総合的な満足度の設問に対する「満足」と「やや満足」の回答割合」が100%の結果となった。

## 10 所管課意見

・指定期間の更新に伴い、新たな取組を積極的に行ったことを評価する。特に、健康体操教室をはじめのスマホ教室といった施設利用者のニーズを捉えた事業や、世代間交流事業として実施した近隣小学校と連携したふれあい交流事業は、これまでは無かった魅力的な事業展開であった。今後は参加者の増加を目指し、より効果的な事業実施方法や周知方法について検証を重ねて、全ての事業をブラッシュアップして欲しい。

・自主事業として新たに開始した浜松園におけるコンビニの移動販売については、施設利用者のみならず施設周辺の住民の利便性の向上にも繋がっており、これまで浜松園に馴染みが無かった方に対し施設に足を運んでもらう機会にもなった。また、浜松園の設立50周年記念事業や来園者200万人達成記念事業についても、タウンニュースをはじめとする地域メディアを活用して積極的な情報発信に努め、施設や事業の認知度の向上に取り組んだことを高く評価する。

・高齢者人口が増加する中、地域の中で老人福祉センターの果たす役割はこれまで以上に大きくなる。コロナ禍を経て、施設の新たな利用方法や利用形態を定着させつつ、地域包括支援センターや近隣の小中学校、地域団体との連携を強化して欲しい。

## 11 選考委員会意見

- ・総合評価について、令和3年度はB評価であったが、令和4年度はA評価となった。利用者からの意見をできるだけ反映させようという姿勢を評価する。年1回の利用者満足度調査だけでなく、常時、多くの利用者の声を集め、施設運営に活かしてほしい。
- ・利用者が高齢者のみに制限されている中、自主事業の開催により多世代に施設を開くなど、指定管理者が既存の枠組みの中で工夫しながら多世代交流に取り組んでいる点を高く評価する。特に子どもたちを巻き込んだ事業展開は評価できる。
- ・コロナ前の施設利用者数が成果指標となっていることから、達成に向け、新規利用者の開拓に知恵を絞ってほしい。
- ・人と人とのふれあいによる利用者の増加、そして利用者満足度の増加を期待する。様々な活動の発表の場、交流の場となり、高齢者が様々な交流を通じて社会とつながっていくことも、老人福祉センターの機能である。
- ・社会が大きく変化する中、人生100年時代を生きる高齢者にとって、新たな学びが必要な時代になっている。多様な事業の開催等により、老人福祉センターが高齢者にとっての情報発信拠点となるよう期待する。

### 総合評価（自動判定）

**A**

(70/100)

